

24 年度 氷見市教育総合センターだより 第 6 報

メールアドレス kyouikukenkkyu@city.himi.lg.jp

ホームページアドレス <http://www.city.himi.toyama.jp/hp/menu000000500/hpg00000416.htm>

不登校・長期欠席を減らすには part2

平成 24 年 6 月に国立教育政策研究所から発刊された「不登校・長期欠席を減らそうとしている教育委員会に役立つ施策に関する Q&A」のポイントの紹介 2 回目です。

1 「中 1 ギャップ」の正しい理解

- ・「中 1 ギャップ」という言葉で、安易に問題を片付けるべきではない

不登校⇒小 6～中 1 にかけて増えているが、中 2 になる際にも増えているので中 1 だけの問題かは疑問。
いじめ⇒教師による認知件数では中 1 がいじめのピークであるが、児童生徒への聞き取り調査では、代表的な「仲間はずれ・無視・陰口」で見ると、被害経験は小 4 から中 3 にかけてゆっくりと減少し、加害経験は小 5 から中 1 くらいまでがピークとなる。

※「問題行動等調査」、「いじめ追跡調査 2007-2009 いじめ Q&A」より

↓
 本当かどうか十分に確認せず「中 1 ギャップ」という言葉だけが一人歩きすることこそが怖い。

- ・進学に対する不安感を不登校の原因と決めつけるのは誤り

生徒指導・進路指導研究センターが A 県の協力で、小 6 時の中学進学に伴う期待感や不安感に関するアンケート調査を平成 22 年 2 月に実施した。さらに、平成 22 年 3 月(小 6)時の出欠席状況、平成 23 年 3 月(中 1)時の出欠席状況を調べ、因果関係を分析した。

↓
 不安感が高いからといって不登校になるわけではない(不安感が影響した可能性のある生徒もいるが)。

- ・適切な「小中連携」を行っていくことが求められる

不要⇒・小学生の不安感解消だけを目的とした小中連携。

有効⇒・小中の教員が相互に行き来し、児童生徒の反応や授業の仕方の違いに気付くこと、6 年生の時の活動を中学校の教師が見ておき、中学校での言葉がけに生かすことなども有効である。
 ・小中連携ばかりでなく、小小連携も重要である。(例)同じ中学校区内の小学校が合同で宿泊学習を実施し、中学校入学前に顔合わせをしておくなど。

2 長期欠席すべてを問題にする

- ・「病気」や「その他」で分類したらそれで終わり、ではない

長期欠席の理由を「不登校」に分類した場合には理由が問われ、それなりの対処が求められるのに対し、「病気」や「その他」に分類した場合には、それで終わりになりがちである。地域によっては、「不登校」の割合が減少傾向にあるにもかかわらず、「その他」が増加傾向の場合もある。

↓
 「病気」であれ「不登校」であれ「その他」であれ、理由にふさわしい対応を行う必要がある。

3 心理検査は何のためかを考える

- ・検査やアセスメントの目的や効果をはっきりさせる

不登校対策として学校で導入しているアンケート式集団検査は、もともとは学級評価のために開発されたもので、学級や学年、学校全体を評価する目的なら有効であるが、個人の評価にこだわり、精度を高めたいのなら、項目数の多い個別式を使ったり、同時期に何度も繰り返したりするしかない。

- ・検査を「不登校」やいじめの未然防止や初期対応に役立てるのは困難

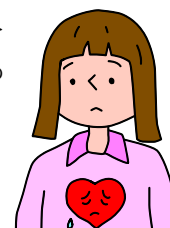
心理検査の分析結果が届くまでに時間がかかり、届いた頃には欠席日数が 30 日を越える場合もある。
 ○ 前年度までの欠席情報の活用と、休み始めた直後からの対応という「初期対応」を実施している。

↓
市販の心理検査を用いる必要はない

- 不登校の「経験なし」群を不登校にさせないための「未然防止」の取組は、何よりも「授業づくり」や「集団づくり」の改善である。

“いじめ”を絶対に許さない心を育てる！

市教育総合センター所蔵の中学生用道徳副読本から、いじめの指導に役立ちそうな資料を取り上げてみました。自級の実態を踏まえ、これらの資料を道徳の授業で取り上げ、いじめを絶対に許さない心の醸成に役立ててください。



文部省(現文部科学省)道徳教育推進指導資料

(指導の手引き)2 —「主として他の人とのかかわりに関すること」—

資料名	内 容
いつも一緒に p10～p15	小さな嫉妬から友人との信頼関係を壊してしまった主人公が「親友」の意味について自分なりに考えながら、友情の大切さに思い至るまでの心の動きを追った内容となっている。 資料を通して、本当の友人とはどういうものかを一人一人に深く考えさせることができる。

(指導の手引き)3 —「主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること」—

資料名	内 容
一番星 p36～p39	体も小さく気も弱い中学生悟史が、同級生の隆司におどされ、康夫の靴を冷たい雨の降る外に投げて帰る。 隆司の卑怯なやり方に腹を立てるがどうすることもできず、その片棒を担いでしまった自分自身への嫌悪感に悩む悟史の姿を通して、人間として毅然とした誇りある生き方への理解を深めることができる。

(指導の手引き)6 中学校 社会のルールを大切にする心を育てる

資料名	内 容
いじめについて考える p90～p93	本資料は、いじめた側・いじめられた側・傍観していた側からの三者三様の意見、そして、いじめられていた生徒をみんなで守った事例から構成されている。 弱いものをいじめることは、人間として絶対に許されない行為であることについての心情的な理解を深めることができる。

中学校道徳副読本

学年	資料名	出版社	内 容
1	クラスの痛み (朗読劇)	光村図書	・使い走りをされている生徒を見て注意した女子生徒が今度は無視される。一人一人が自分らしくいられるクラスにするためにはどうすればよいかを考える。
	ちがいの意味を見直す	光村図書	・留学生の話聞き、日頃何気なく使っている「関係ない」という言葉をいじめと関連付け、人間関係の望ましい在り方について考える。
2	ちいちゃんの爪	教育出版	・噂のために仲間はずれにされていた女子生徒が運動会でみんながいやがる長距離走に出場することになる。日常の友達関係の問題点を見つめ、真の友情を育てるためにはどうすればよいか考える。
	わたしのいもうと	東京書籍	・いじめられて亡くなっていった妹の死を通して、差別やいじめをなくするにはどうすればよいか考える。
3	わたしのいもうと 卒業文集最後の二行	教育出版 東京書籍	・小学生のときにいじめた女の子のことを30年たった今でも思いだし、涙を流し後悔している筆者の気持ちを通して、差別や偏見のない社会について考える。

第2回教育セミナー（学力向上研修会）

演題 「新しい理科教育の創造」

講師 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 村山 哲哉 先生

8月21日（火）実施



軽妙な語り口で、全国学力・学習状況調査の小学校理科の結果分析や具体的な授業場面等の事例を入れながら、理科の指導のポイント等について大変分かりやすく話していただいた講演でした。その後、朝日丘小学校杉守智美教諭と北部中学校新田稔教諭から氷見市の小学校及び中学校理科の調査結果を分析し報告していただきました。

参加者の声 アンケートより

- ・言語活動を充実させるためには、体験活動がとても必要であることが再認識させられた。物事に対する捉え方や見方ができていなければ、どんなに知識があっても表現することができない。「知識・理解があっても技能がともなわなければ活用することができない」という村山先生の言葉にとっても納得し考えさせられた。
- ・講師の先生の「指導をしっかりすれば学力は伸びる」という言葉が心に残った。私たち現場の教師が、苦手意識を感じ遠ざけてしまうような分野において、今回の全国学力・学習状況調査での子どもたちの正答率が低いという結果が出ている。日頃自分も苦手意識をもち、つい体験活動をおろそかにし、知識として覚え込ませることが多いことを反省させられた。理科における言語活動は、体験を基盤としたものであることを念頭に置き、今後の指導に生かしていきたい。
- ・全国学力学習状況調査の分析、考察についての発表があったが、具体例を挙げたり、不足している力の改善方法を提示したりされていて参考になった。

氷見市児童生徒科学作品展



9月15日（土）・16日（日）に氷見市児童生徒科学作品展を開催しました。

今年度は、小学校から45点、中学校から49点、合計94点の作品が市内全小・中学校から出品されました。



9月13日（木）に市内各校からの代表者による厳正な審査が行われ、県出品5点、金賞4点、銀賞19点が選ばれました。身近な動植物の観察を根気強く続けてその特性を見付けたり、電池や風車などを対象物として実験を通して課題解明を図ったりと地道に研究を積み重ねた作品

揃いでした。

県出品作品は、10月19日（金）から10月22日（月）午前9時から午後4時まで（22日は午前のみ）富山市科学博物館に展示されます。



○●放射線に関する指導の授業を公開します●○

理科教育研究委員会では、放射線に関する指導法を研究してきました。

研究委員が下記のとおり放射線に関する研究授業を行いますので、ぜひ参観ください。

10月30日(火)の小学校の授業後は、戸田一郎先生(北陸電力エネルギー科学館ワンダー・ラボ サイエンスプロデューサー)からの放射線についての基礎的知識や放射線検知器、霧箱等の実演講義も行います。ぜひこの機会に、放射線や器機の使い方を覚えて、児童生徒の指導に役立てていただきたいと思いますと考え企画しました。詳細は後日文書でお知らせします。

<小学校の部>

日 時：10月30日(火) 14:30～

会 場：比美乃江小学校

教科領域：学級活動(6年生)

授業者：宮林 次美 教諭

<中学校の部>

日 時：11月21日(水) 14:30～

会 場：北部中学校

教科領域：理科(3年生)

授業者：新田 稔 教諭

新着図書を紹介

わかる！小学校理科授業 入門講座

村山 哲哉(文部科学省教科調査官) 編著 発行所 文溪堂

教師としての最低限必要な理科的知識を掲載しており、小学校理科の各学年の学習内容について、分かりやすく解説してあります。理科の指導力を向上させ、授業で役立つ情報が掲載してあります。理科の指導が苦手な先生、若い先生方にお勧めします。

小学校理科 事例でわかる！子どもの科学的な思考・表現

村山 哲哉(文部科学省教科調査官) 編著 発行所 図書文化

問題解決の過程にそって、言語活動の場をどこに設定し、そこからどのように子どもの思考を見取り、育てていくか。全学年全単元の事例に、村山教科調査官のコメント解説付きです。

教科調査官が語る これからの授業 小学校

言語活動を生かし「思考力・判断力・表現力」を育む授業とは

水戸部修治(国語)、澤井 陽介(社会)、笠井 健一(算数)

村山 哲哉(理科)、直山木綿子(外国語活動)、杉田 洋(特別活動) 編著

発行所 図書文化

各教科調査官がそれぞれ3つのモデル授業を提示し、授業と評価の工夫・改善のポイントが掲載されています。また、各教科調査官のワンポイントアドバイスが書かれてあり、指導の参考になります。

※ 本や教科書等は、用務員や事務員の方の代理でも貸し出しができます。